

# 「家庭の日」作文コンクール入賞者

毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、その啓発事業として「家庭の日」作文コンクールを実施したところ、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

生涯学習課 ☎62-1036

## 【最優秀】（6人）

「お姉ちゃんなんていやだ」杉本咲恵（小垣江小4年）  
 「お父さんの仕事」太田幸花（小垣江東小5年）  
 「めちやくちや重い」山本蓮（富士松南小6年）  
 「父のカレー」石川結菜（刈谷東中1年）  
 「当たり前の大きな存在」草刈麻杜（依佐美中2年）  
 「朝の習慣」上田綾華（刈谷南中3年）

## 【優秀】（6人）

「四年生になってふえたお手伝い」塚本ひより（富士松南小4年）  
 「わが家の魔法の言葉」松岡寛介（東刈谷小5年）  
 「やっぱり妹はいいな」久野帆乃香（衣浦小6年）  
 「ミッション」笑顔のために〜葛野彩花（刈谷南中1年）  
 「自分が頑張る」門馬なおみ（雁が音中2年）  
 「進路について考えて」徳永珠帆（雁が音中3年）

## 【入選】（51人）

田中徳真・石本裕蘭・荻野裕亮（亀城小）、中西希虎・深谷陽菜・宮崎涼音（小高原小）、半澤美結・坂下謙介・安岡侑輝（日高小）、秋山遼・土井雅大（衣浦小）、佐野公香・角谷莉理香・長谷川茉耶（住吉小）、北川寛人・堀咲稀・岩松恵生（かりがね小）、室伏修斗・戸枝明寛・平島美亜（平成小）、青山彩良（富士松南小）、西坂航世・田中未拓・前田哩伽（富士松北小）、北別府蒼介・近藤竣揮・野々山穂香（富士松東小）、山口凛・神谷音花（小垣江小）、坂口歌・長谷川蓮（小垣江東小）、杉浦大晴・實藤優・丹羽梨心（双葉小）、香川侑大・伊藤柊登（東刈谷小）、杉浦瑳友・長谷川楓真・岡田紗奈（朝日小）、森田都和子（刈谷南中）、上野真央・堤遥（刈谷東中）、山本実結・横山日南・近藤将範（富士松中）、加藤樹果（雁が音中）、白井星奈・内田京子（依佐美中）、榊原あみ・古田伽音・西大介（朝日中）

## 朝の習慣

刈谷南中学校3年 上田綾華

私には小学校三年生から毎朝続けていることがある。それは、「母と二人でウォーキング」をすることだ。きつかけは私が母と話さなくなったから。母は小学校に上がった妹ばかりに構っている気がした。私は「母は私のことが好きではないのかもしれない」と思うようになった。それを知った母が、  
 「朝早く起きて二人で歩こう。」  
 と言ったのが始まりだ。

最初は、ウォーキングしながらの会話は全く弾まなかった。何を話したらいいかわからないのだ。私から話しかけることはなく、無言になることが多かった。そんな私に母はいろいろな話をしてくれた。話題は最近の学校のことや母の職場であつたおもしろいことなど。私の元気を出そうと、次から次へと話題がわいてくる。今考ええると、そんなに気を遣わせてしまつて申し訳ない気持ちでいっぱいだ。愛されていないなんてとんでもない。私のためにたくさん時間を割いてくれた。

学年が上がるにつれて、朝、母とウォーキングの時間を作るのが難しくなつた。同時に、私はイライラして母に当たることがあつた。そんなときも母は、  
 「三分ウォーキングを続けよう。」  
 と言ってくれた。

「何かあつたら、ママにこつこつと相談してね。」と。それを聞いて私は涙が出てきた。こつこつと毎朝母と会話ができるのはなんて幸せなことだろう。

そんなとき母が病気になる、朝のウォーキングもできなくなつた。私の心にぽっかりと穴が

開いた感じがした。リハビリのときも母は、「大丈夫、大丈夫。」と笑顔で返してくれる。

それから私は母の手伝いをするようになった。朝ご飯を作ったり、掃除や洗濯をしたり。ウォーキングが再開したとき、母は最近困っていることや仕事の事などを話してくれるようになった。それを聞いて、改めて母の大変さが分かるようになった。そして、私は母に頼られているような、一人前に扱われているような気がしてうれしく感じた。

私は柔道をやっていて、足をけがすることもあつた。そんなときはウォーキングを休んで、母と朝食作りをするようになった。そこで気付いたのは、ウォーキングでなくても同じように朝の時間が楽しいということだ。料理が得意な父が時々手伝ってくれて、並んだ食事を兄が「おいしい、おいしい。」と食べている。妹も「作り方を教えて。」と言ってくる。それが私には本当に嬉しい時間となつた。

母と話せる時間がちゃんとあつた。母が私の話を聞いてくれる安心感がたまらない。落ち込んだり、困つたりすることがあつてもきつと大丈夫だと思える。

朝食を作れば、その後に家族で食卓を囲む。私と母が作った朝食を父と兄妹がおいしいと食べている。私の居場所がここにあると確信する瞬間だ。私の信頼する人たちが喜んでくれるのがなにより嬉しい。妹とけんかすることもあつたかもしれないけれど……、きつと大丈夫。

朝の習慣はいいことばかりだ。